九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[07_12] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 : 7(12)

https://doi.org/10.15017/18266

出版情報：図書館情報. 7 (12), pp.67-72, 1971-12-15. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

九州大学附属図書館月報

図書館情報

1971.12

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 7, No. 12

件名索引法と MEDLARS について （その1）

長 尾 公 司

はじめに

“現代は情報の時代である。”といわれているが，すべての文化領域における情報量の増大の傾向は，止まるところを知らず“Information explosion”という表現もうまれるほどである。こうした状況のもとでは，他から与えられる情報への依存度は，きわめて高く，素材的情報の正確な記憶と取り出しとは，それらの加工と組み合わせという，次の有効情報の開発プロセスのために重要な意義をもち，大学図書館員にとっても，そのための技術，すなわち，情報検索 (Information retrieval—I R) の問題は，サービス上の重大関心事でなければならない。そして，最近の電子計算機の発達とその適用技術の進歩とは，大量情報の高速処理と，サービス書誌の副生とを可能にして，情報活動の危機の打開に光明を与えているが，その代表的な例として，米国国立医学図書館 (National Library of Medicine—NLM) が開発し，1964年から実用化した電子計算機を中心として，全世界の医学文献情報の入力蓄積，印刷版型のレイアウト，写真植字，検索のできるシステムである MEDLARS (Medical literature analysis and retrieval systems の略) をとり上げ，特にその件名索引法について述べたい。

I 情報検索における索引の意義

1．I R の機能

Vickery は，Retrieval を定義して，“利用者の要求に応じて，資料が Store から選び出される仕事をいい，利用者と Store とを結ぶ Channel の1つである。”としているが，I R の意義は，(1) 必要な情報を必要に応じてさがし出し，利用に供すること。(2)そのために，あらゆる情報を収集し，利用に備えて整理しておくこと，の2点に要約できよう。また，I R の機能は，(1) Reference retrieval，すなわち求める情報は，これこれの文献の中に含まれているという，文献の Reference を提供する機能。(2) Document Retrieval，すなわち，その情報の含まれている文献はこれであるという，文献そのものを提供する機能。(3) 狭義の Information retrieval，すなわち，探し出した文献の中から，求める情報そのものを取り出して提供する機能，の3つのタイプに分けられるが，利用者がもっている要求，すなわち，(1) 日々の進歩に遅れないための，カレントの情報に対する要求 (Current approach) (2) プロジェクトに取りかかる前に，その主題についての情報を網羅的に入手したいという要求 (Exhaustive approach) (3) プロジェクトを進めている間に日常起こる情報に対する要求 (Everyday approach) のための情報探知の手段としてとられた，(1) Current awareness, (2) Retrospective search, (3) Specific recall の結果として，Document retrieval や，狭義の Information retrieval にまで，I R の機能は拡大されたとはいえ，電子計算機のコストや処理時間の関係で，まだ抄録ないしは原資料そのものの記憶と取り出しの実用化にはいたっていないことを見ても，機械検索の段階でも，Reference retrieval は，依然としてI R の主流をなしているということができる。

2．I R の手段

情報資料の組織化ということは，I R の手段として重要な意義をもつものであるが，図書館や情報センターのように，Store という形で考えられるものと，さらに図書館協力のような Network という形で考えられるもののように，資料そのものの集積という組織化と，利用者の要求を文献その他の情報のアドレスに対応させる働きをする，2次資料の作成という組織化があり，記憶と取り出しの機能から考えて，今日では印刷形式のものだけではなく，電子計算機に蓄積された形での2次資料化も考えうるのである。そして，2次資料化のための基本的技術は，文献あるいは情報の主題を指示するガイドの作成作業であり，それが広い意味で，“索引づけ”と呼ばれるものである。

3．索引の定義

Shorter Oxford English dictionary によれば，“Index”を，“特定の事実あるいは結論に導びく働きをなすもの”と定義しているが，Webster's new international dictionary では，やや解説的に，“通常，1冊の本の中のトピック，名前などのアルファベット順のリストであり，各事項が扱われている個所のページ番号が与えられており，普通にはそれは巻末におかれている”としてあり，3rd ed. では，さらに記述が詳しく，“図書，目録，学位論文のような，印刷または筆記された著作の中で，特に適当な，そして完全に，あるいは部分的にカバーされているか，あるいは少し触れられたと考えられるトピック，人名，地名などのすべての，あるいは，全部に近い項目を含んだアルファベット順のリストである。それは，各項目にその著作の中で見出される場所をページ番号によって示している。そしてそれは，通常巻末に近いところにつけられている。”と改められ，目録を想定したという点の変化は認められるが，巻末索引の考え方は変わっていない。しかし長い歴史をもつ巻末索引も，内容への手がかりとなる索引項目が複雑多岐になってきたことや，複数の著作をカバーする索引の必要が起こってきたことなどから，内容的にも，形態的にも，ひとつの独立したタイプの2次資料という形の索引が出現してきたため，むしろ“特定の情報資料に含まれている各種の情報の所在を探知することができるように，それらを項目として取り出し，かつ所在指示を与えて，一定の順序に配列している検索ツール。”(長沢）というように，索引の定義は変化してきている。American Standard Association の索引作成に関する小委員会は，“図書館実務とドキュメンテーションの分野にあっては”という条件をつけて，“索引は，読書資料あるいはその他の記録資料の内容へのガイドである。そして，そのような資料の内容について体系的な一貫した主題分析を行ない，それはアルファベット順，年代順，番号順，あるいはその他の何らかの順序にしたがって配列される。記入には，はっきりした所在を示すために，ページ番号，パラグラフ番号，その他の指示記号がついている。”と，新たな定義を示している。

4．索引の種類

刊行形式，被索引資料，主題，要語，配列方法，検索方式など，いろいろな観点から，索引を類別することができるが，実際にはそうした分類のいくつかを併せもった索引が存在している。

(1) 巻末索引のように，索引する対象が固定している閉鎖的な索引か，あるいは雑誌記事索引のように，新しい索引対象が無限に増していく開放的な索引か，(2)同一情報に，その主題に適応する見出し語を全部集めておき，情報ごとに検索する Search 方式か，あるいは同一見出し語のもとに，それに対応する資料を集めておき，見出し語ごとに検索する Look-up 方式か，(3)サービスと呼ばれる大規模な組織で作られる索引か，1機関，1個人などが作る自家索引か，そして，(4)著者名などの形式索引か，あるいは主題索引か，そして主題索引の場合は分類索引か，要語索引かにその形式が分かれる。

5．主題索引

索引づけの方法として，(1)情報を概念から再分割して体系化する分類的方法と，(2)主題を表わす言葉を使用した要語索引法とがあげられる。分類的方法には，デューイ十進分類法や，国際十進法分類法のような十進分類法と，米国議院図書館分類法のような非十進分類法があり，分類項目間に論理的あるいは階層的関係が存在しないこともあり得るという欠点を補う試みとして，コロン分類法などのファセット分類法もあるが，階層的な分類法を索引に利用する場合には，対象とする主題について，マクロ，ミクロ何れの視点にも立てる便利さはあるが，主題を表わす言葉を分類に対応させるもうひとつの方法が必要となるため，作業が2段階になる難点があり，分類表の作成にあたって，将来の予測も盛り込まなければならず，新しい分類項目の追加が，必ずしもうまくいかないことから，進歩の速度の早い学問領域の索引には適当でない。要語索引法では，まず，(1)情報をいくつかの主題に分析して，それらを表わす件名標目 (Subject headings) を結びつけて索引する件名索引法。(2)主題を表わす情報中の重要語を見出し語 (Keywords) として索引する，キーワード索引法などがあるが，主題を示す言葉をそのまま索引用語として使用するため，分類したり，コード化したりする必要もなく，新しい索引用語の追加も容易である。機械検索の登場によって，自然語を使う索引が考えられ，その代表的なものとして，IBM 研究所の Luhn らによって開発された

KWIC (Keyword in Context) 索引があり，作成上の利点が多いため，幾多の検索上の欠点をもちながら，普及してきている。件名索引では，それが開放的な索引（例えば，索引誌）の場合には，件名標目表による規制がないと，後に累積索引を作成する場合に大きな障害となることがある。要語索引で最も注意しなければならないことは，著者と，索引者と，検索者と，そして利用者との間に起こる用語の使用概念の食いちがいの問題があり，多くの場合，索引技術の大部分は要語の調整に費されるといってよい。

6．Index Medicus

医学生物学分野での主題索引誌として知られる Index Medicus は，後でふれようとする MEDLARS の主要プロダクッということもあり，まず解説しておかなければならない資料である。

米国国立医学図書館が発行した Current List of Medical Literature のあとをうけて，1960年に創刊された Index Medicus は，歴史的には，(1) Index-Catalogue of the Library of the Surgeon General's Office, (2) Index Medicus (旧版). (3) Quarterly Cumulative Index Medicus. (4) Current List of Medical Literature と関連をもつものであり，1964年には，MEDLARS から提供されるようになった。現在の発行形態は，月刊で，その中に Bibliography of Medical Reviews を併載し，年間累積版として，Cumulated Index Medicus が出版されている。

全世界の医学生物学分野の学術雑誌の中から，約2,400タイトルを選び，それらを掲載される論文・トピックスを索引の対象としており，各号（累積版では各巻）とも，Subject section と Author section とに分かれ，Subject section は，MEDLARS の件名標目表である Medical Subject Headings（略称 MeSH）の件名がアルファベット順に排列され，その下にさらに Subheadings（副件名）毎にまとめられて，文献のレファレンスがリストされている。そのレファレンスは，(1)英文タイトル（英文以外のタイトルの場合は，その英語を○内に。），(2)著者名（複数の場合は，主著者1名を出し，et al. を附す。），(3)掲載雑誌の略誌名（List of journals indexed in Index Medicus のコードに従ったもの。），(4)巻・号・頁数，(5)発行年月日，(6)論文の使用言語表示（英文以外の場合のみ，( ) 内に略号）の順になっている。また Author section では，(1)著者名，(2)原語による論題，(3)掲載誌名，(4)巻・号・頁数，(5)発行年月日，(6)論文の使用語表示，(7)文献ナンバー (Cit. No.) の順でレファレンスがある。原語による論題といっても，日本語，ギリシヤ語などは，この原則外で，英訳タイトルが使用されている。著者名は第3位の著者まで表わされ，第2位以下の著者からは，第1位の著者に参照される。

Index medicus 以外の MEDLARS 書誌の中に，たとえば Toxicity Bibliography などでは，Index Medicus のようなレファレンスの他に，その論文の索引に当って与えられたすべての件名と照合事項とが併記されて，その論文内容への抄録に似た手がかりを与えている。 **（つづく）**

注 本稿は，昭和45年度大学図書館専門職員長期研修のための講義要綱としてまとめたものの一部である。

（ながお・こうじ：中央図書館整理課長）

◆ 会　議

日本医学図書館協会第42次総会

〈とき：昭和46年11月4～5日　ところ：三重県立大学附属図書館医学部分館〉

今次総会の主な協議題は次のとおりであった。(1)附属図書館医学部分館長の管理職手当について (2)研究集会について (3)入会加盟の細則改正について (4)文献相互貸借複写料金について。

このうち(3)については昨年からの継続審議になっていたもので，今回も事務局案をめぐって慎重な審議がなされた。この結果若干の修正が加えられて可決された。

改正の主な点は，協会加盟館の性格づけをあらためて明確にするとともに，第35次総会（昭和38年）以来設けられていた準会員館の入会を今後は認めないことにしたことである。九大からは田中分館長，西村受入掛長，中野目録掛長の3名が出席した。なお，名誉顧問として4氏が承認され，九大からは前閲覧掛長の山川幸雄氏が選ばれた。

昭和46年度大学図書館職員講習会に参加して

山　本　　久

〈とき：昭和46年11月9～12日　ところ：広島大学　受講者78名〉

この講習会は，文部省が国・公・私立大学・高専図書館の中堅職員を対象として，資質の向上をはかることを目的に毎年開催しているもので，本年度の西日本地区は上記大学で開催された。講習会の概要は次の通りである。

〈第1日〉(1)大学図書館の使命（高木暢哉・九州大学）学問体系の細分化と綜合化の一見相反する動きの中で学問は急速に進展している。この進展と共に，情報化時代における図書館は，大学全体のための中立的・開放的・公共的・場所的性格と学術情報伝達の正確さと迅速さが要求される。この中における図書館人は，自主性・対他志向性・協力性・好奇心と関心・動的な働きかけへの意欲などをもち，知識や技能を拡大して自己を磨き，主体的自覚をもつべきである。

(2)大学図書館における非図書資料の収集，整理，利用法（前園主計・日本生産性本部）知識(情報)の媒体として，図書の果している役割は大きい。しかし，昨今では，図書以外（非図書）の情報の記録物（資料）も数多く作成され，変動する社会のニーズに応えるようになってきている。これらの非図書資料は，図書のもつ機能の欠点を補うばかりか，ある場合には，図書にかわる機能さえ果たすことがある。この意味で大学図書館においても，非図書資料を軽視できない。そこで図書館は通常，これらの非図書資料を収集し，利用者の要求する情報を即座に提供できるようにしておくこと，所有している情報を紛失破損しないこと，この二点を考慮して経済的・効率的に運営しなければならない。

〈第2日〉(1)レファレンス・サービスと二次資料の利用法（徳村泰弘・大阪大学）レファレンス・サービスの目的は，情報を必要としている利用者へ情報の流通を円滑化することである。そのためには二次資料（書誌的資料）の作成・利用が重要視されている。従来，受動的サービスに重点がおかれていたが，今後は能動的サービスと平行させ，情報を求めている個々の利用者に対して，積極的に図書館員による人的援助がなされねばならない。パネル討議では広島大学，広島商科大学，関西大学から実情報告があり，今後の問題点について熱心に討議された。

〈第3日〉(1)切抜資料の収集，整理，利用法（藤本春郎・山陽放送）切抜資料とは，新聞・雑誌に掲載された事件，事象，解説，論文など時事的情報を切抜き，台紙（またはスクラップブック）に貼りつけた主題別のファイルである。これを業務として行なう以上，収集の明確な目的，どんな資料を対象とするか，切抜記事の範囲を十分検討して取り組むべきである。切抜資料を利用面からいうと，マスコミにおいては事件，事象の記録として，後日同種の記事や関連記事を書くための報道資料として活用されている。大学の場合，自然科学上の資料価値よりは社会科学分野で社会現象を学術的に追及し解明するための記録資料として価値があり，また，大学経営のうえでも利用価値があるのではなかろうか。

(2)視聴覚資料の収集，整理，利用法，（蛯谷米司・広島大学）広島大学のＬＬ語学練習装置，閉回路テレビ施設の見学および視聴覚器材の整理，利用法について説明が行なわれた。今後の大学図書館は，研究，教育，学習の高率的な成果をあげるための視聴覚資料の活用が強く要求されるであろう。

〈第4日〉(1)大学図書館における情報機器――コンピューターを中心に――（桜井宣隆・図書館短期大学）コンピューターによる図書館業務の機械化のためには，図書館のシステムを理解しなければならない。このシステムは Unit process（単位作業）の組み合わせであり，これら一つ一つの Process を機械化していこうというのがねらいである。その1例として，貸出業務機械化（モデル作成）の詳細な説明があった。また，欧米各国における MARC の開発・利用の動向，機械化の現状について紹介があり，機械化にあたっては，ネット・ワーク，ドクメンテーション活動，綿密な業務分析の必要性が強調された。このあと広島大学，神戸大学から機械化の現状について報告があった。

以上が4日間の簡単な報告である。情報量が10年後には現在の 10^2 倍になるであろうと予想されている現在，この講習会を受講して痛感したことは，「ナマの情報」を一刻も早く収集し，利用者へいかに速くそれを提供するかという心構えと，日常業務の中でつねに知識の練磨と意欲的な研究心がいかに必要であるかということである。短期間の講習会であったが，本学における図書系中堅職員研修会を受講していたことが役立ち，理解を早め，非常に有意義であった。ただ心残りはレファレンス・サービスと二次資料の利用法の時間に，索引誌を利用して参考質問を処理する演習を設けてもらいたかったことである。なお本学からは，他に出島事務官（農学部図書掛），吉川事務官（医学分館），井上事務官（教養部分館）が参加した。

（やまもと・ひさし：中央図書館整理課目録掛）

レファレンス・コーナー 〔その10〕

——中央図書館情報資料掛——

中央図書館の情報資料掛（電・5310）では，利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行なっていますが，ごく最近にあった質問のなかから幾つかを，ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 略誌名と思われるが，Opt. Techno.（1969年創刊）のフルタイトルを知りたい。文部省編「学術雑誌総合目録・自然科学欧文編」にも該当誌名は見当らなかった。

回答例 名古屋大学から寄贈された「名古屋大学予約雑誌目録」(1970年版）で，Optics technology という誌名がわかった。

質問2 1969年および1970年中に，「金属材料の疲労」に関する国際会議が開かれたか。

回答例 本館には適当な資料がないので，医学分館に次の資料で調査を依頼した。 1. World meeting; United States and Canada 1969, 1970. 2. スカンディナビア航空会社発行の国際会議予告カレンダー 1970. その結果，1969年10月13日にアメリカのフィラデルフィアで，材料工学展 および 会議（Materials Engineering Expo & Congress）が開催されたことがわかっただけだった。この種の質問が意外と多い。そのため今後本館に備えつけたい資料に次のようなものが考えられる。1. World list of future international meetings. Library of Congress, Pt. I. Science, technology, agriculture, medicine. Pt. II. Social cultural, commercial, humanistic. 2. 国際学術会議（日本学術会議事務局編）3. スカンディナビア航空会社発行の国際学術会議予告カレンダー 4. Proceeding in print.（隔月刊）（出版された Proceeding の index）なおこの他，国際学術会議・団体に関する資料としては，次のものも役に立つものと考えられる。1. 国際学術団体要覧（日本学術会議編）(040コ50) 2. 学術月報（月刊）（日本学術振興会編）(050カ20 および新刊雑誌室） 3. わが国で開催予定の国際会議一覧表（国際観光振興会編）（昭和43年以降はインフォメーション資料コーナーに整備）

質問3 次の諺は，誰のことばか。「なせば成るなさねばならぬ何事も，なさぬはひとのなさぬなりけり」

回答例 故事ことわざ事典（512コ23）に，「為す者は常に成り，行う者は常に至る」という言葉が出てくる。この出典は「晏子春秋三」で，〝晏子曰く……〟という形で出てくる。おそらく質問の諺は，これをもとにして誰かが考え出したものと思われるが，その人物は簡単にわかりそうで意外とわからず満足な回答ができなかった。個人の記憶に頼るレファレンスがいかに不十分かという一例であろう。

質問4 「雲夢沢」について知りたい。

回答例 アジア歴史事典（635ア13）で回答。「ウンボウタク」と読み，中国古代に今日の湖北省南部から湖南省北部にかけてあったと考えられる大沼沢地。

質問5 水中における音速の測定法

回答例 百科辞典の「おと」の項をみれば，詳しく記述されている。理科辞典などの専門的なハンドブック類よりも，むしろ百科辞典の方がわかりやすく書いてある。百科辞典を引けばわかる程度の質問類が意外と多い。それは学生に限られたことではないようだ。年鑑・百科辞典をまず検索してみることが望ましい。

質問6 世界中のゲーテインスティトゥトの所在地と，在日インスティトゥトの住所を知りたい。

回答例 World of learging 1970～71. (060 W 88) によって，Goethe Institute は Accra (Ghana), Addis Ababa (Ethiopia), Algiers (Algeria),……など世界の35か所にあることがわかる。ただし在日インスティトゥトを確認するツールがないので，文学部独文学研究室に問い合わせて次のとおり回答した。〈千代田区飯田橋4-7-6 曙ビル内，東京独語センターゲーテインスティトゥト〉

質問7 1968年，ウィーンで開催された第14回国際哲学会に参加した日本人の名前が知りたい。また日本語で書かれた会議録があれば読みたい。

回答例 雑誌記事索引 人文・社会編 第21, 22巻（010サ21）を調査して，次の4著者の記事を回答した。(1) 玉井 茂（岐阜大学教養部長・哲学）：「国際哲学会」参会雑記〔第14回 1968.9 ウィーン〕—思想533号（'68) (2)ウィーン国際哲学会議報告—哲学19（'69）（日本哲学会）藤田健治：ウィーン国際哲学会議印象記，田島節夫：第14回国際哲学会議に出席して (3)瀬在良男：「第14回国際哲学会議」参加雑報—精神科学（日大哲学研究室）(4)田中香澄：第14回国際哲学会議〔'68, 9於ウィーン〕研究報告—千葉商大論叢12（A）（'69)

お知らせ

冬休み期間中の開館時間の臨時変更および臨時休館について

〈中央図書館・医学分館・教養部分館〉

	開館時間の臨時変更	臨時休館
中央図書館	12月20日(月)より47年1月14日(金)まで。午前9時より午後5時まで。ただし土曜日は，正午まで。	12月25日(土)より47年1月6日(木)まで。
医学分館	12月20日(月)より25日(土)まで，47年1月5日(水)より8日(土)まで。午前9時より午後5時まで。ただし土曜は，正午まで。	12月27日(月)より47年1月4日(土)まで。
教養部分館	12月25日(土)正午まで。	12月27日(月)より47年1月7日(金)まで。

本学教官著作寄贈図書

竹原良文（法学部・政治学史）
体系政治学　上巻（G.E.G. カトリン著　竹原良文・柏　経学　共訳）昭46　法律文化社　¥ 1,000

三井　清（教養部・英語）
英詩用語の諸相（H.C. Wyld 著　三井　清訳）昭46　研究社　¥ 950

長沼賢海（文学部名誉教授）
聖徳太子論攷（長沼　賢海著）昭46　平楽寺書店　¥ 4,500
巡　礼（長沼賢海）昭46　自費出版　¥ 200

◆ 人事異動

46. 10. 16　高木　暢哉（附属図書館長・経済学部教授）文部省より大学図書館視察委員に発令さる（任期は昭和48年10月15日まで）

46. 12. 1　西浦　松男（農学部図書掛）北九州工業高等専門学校図書掛長へ

○○編集後記○○

地球より1億4千万キロもかなたの火星に，探査機火星3号は見事軟着陸し，火星の人工衛星となったマリナー9号も，夥しい数の写真を送信しつつある。一方，印パ国境には戦火があがり，早急には消えそうにもない。六本松の教養部をはじめ，学生の派閥抗争はいつ果てるともない。こうして1971年も暮れようとしている。正に「利害を超越した人間」のうえに。

とまれ，人間は限りなく前進してゆくものである。図書館にとっては，十数年来の課題であった中央図書館の新築が，正確に軌道にのり，年内に業者選定契約の運びに到った。それだけ九大における教育研究の態勢が整ってゆくわけである。それは容れものと同時に，内容も改まってゆくということを前提にしてであるが。もう一度，図書館に求められているもの，またわれわれが目指しているものを想い，よりよい図書館建設に邁進したいものである。

窓からの景色は，塔を思わせるような裸木の公孫樹と，その向うの枝いっぱいに白い実をつけた南京黄櫨の並木とのみである。しばらくは構内も休息のなかにある。「一年間ご苦労さまでした。また来年は……。」　(Y)

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol.7, No.12　(通巻73号)
1971年12月15日発行・発行人　中　村　　譲
発行所　九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎 3576・〒812・電話代表 ㊹1101 内線 5301